

価値創造の基盤

労働安全・衛生

ミッション

安全はすべてに優先する

安全は私たちブリヂストンの企業経営の基盤です。安全な職場で安心して働くために、バリューチェーン全体を活動範囲として、一人ひとりが安全活動を推進しています。

「安全宣言」は、ブリヂストングループの従業員のみならず、協力会社、当社グループ施設へのご訪問者の方も対象としています。世界中の当社グループの全職場において、従業員や協力会社、当社グループ施設へのご訪問者の方の目を引く所に掲示することに加え、インストラクター制度などを用いて全従業員への継続的浸透を図っています。



お客様をはじめとするステークホルダーの皆様からも期待されているように、高い安全基準の適用により当社グループの従業員や協力会社の労働安全・衛生を確保する上で、このミッションは一層重要になっています。当社グループは、高齢化に伴うエルゴノミクス(人間工学)的リスクの増加、規制の変更、機械や設備の老朽化にも対応するように安全基準を継続的に更新すると共に、当社グループが取り組みを開始・買収する新規事業においても安全に対する意識を真摯に育んでいきます。



推進体制

当社グループでは、労働災害リスクの低減・管理のために、ISO45001及び各国規格・規制に沿ったグローバル安全マネジメントシステムを構築し、グローバル安全・防災標準を策定しています。また、29のグローバル標準を策定、全拠点へ展開しています。

Global CEOも含めたGlobal EXCOメンバーによる統括のもと、グローバル品質経営コミッティ(GQMC)傘下の基盤領域安全グループは、安全衛生に関するグローバルのリスクや課題・機会を管理、対応しています。また、SBUやグローバルビジネスサポート(GBS)と共に、定期的に安全会議を開催し、活発に意見交換しています。

目標とKPI

当社グループは、労働安全・衛生のミッションの実現に向け、労働災害発生状況を毎年集計し、グローバルのベストプラクティスをモニタリングしています。労働安全・衛生全体の目標は業界においてトップレベルになることで、2020-2021年に次のようなKPIと2023年に向けた目標を設定し、結果をモニタリングしています。

- 従業員及び派遣社員の休業度数率(LTIFR)^{*1} : 2.6 (2021年末時点では2.75)
- 協力会社のLTIFR : 1.7 (2021年末時点では0.79)
- 従業員及び派遣社員の重傷度数率^{*2} : 0.05 (2021年末時点では0.08)
- 協力会社の重傷度数率 : 0.15 (2021年末時点では0.11)

2021年、当社グループ4,815か所の生産・物流拠点や小売店において、従業員の重傷災害^{*2}が26件発生し、大変残念なことに1名の方が亡くなりました。この事故に対して、当社グループは当局の事故調査に全面的に協力すると共に、パーフェクトな安全の実現に向けて引き続き尽力していきます。

2022年には、職業性疾病度数率(OIFR)、リスクアセスメント実施率、安全成熟度評価スコアについてKPIを設定する予定です。

当社グループの安全に関するデータは、第三者機関であるLRQAリミテッドによって検証・確認され、情報の正確性と透明性の確保に努めています。

主な取り組み

当社グループでは、職場をさらに安全にしていくために、2021年8月より12種類の設備に対する安全対策を進めています。2022年からは重量物取扱い作業及び保全作業の安全確保に関するグローバル安全要件の設定に着手しました。

また、2022年には生産拠点における安全成熟度評価を実施すると共に、小売店など非生産拠点への展開準備を始めてい

ます。その評価結果をグローバルで積極的に活用し、安全関連のKPIを継続的に向上していくために取り組むべき課題を抽出します。

加えて、従業員の安全意識、能力、エンゲージメントを高めるため、安全ルールの遵守と安全教育を推進するタスクフォースを新たに設置しました。

詳しくは、[Webサイト](#)をご覧ください。

*1 休業度数率=(死傷者数／延実労働時間数)×1,000,000

*2 重傷度数率=(重傷者数／延実労働時間数)×1,000,000

当社グループでは「重傷災害」を次のように定義しています。指の第一関節以上の切断、失明、骨折(手足の指や片方の手足、ひびを除く)、または1か月以上の入院